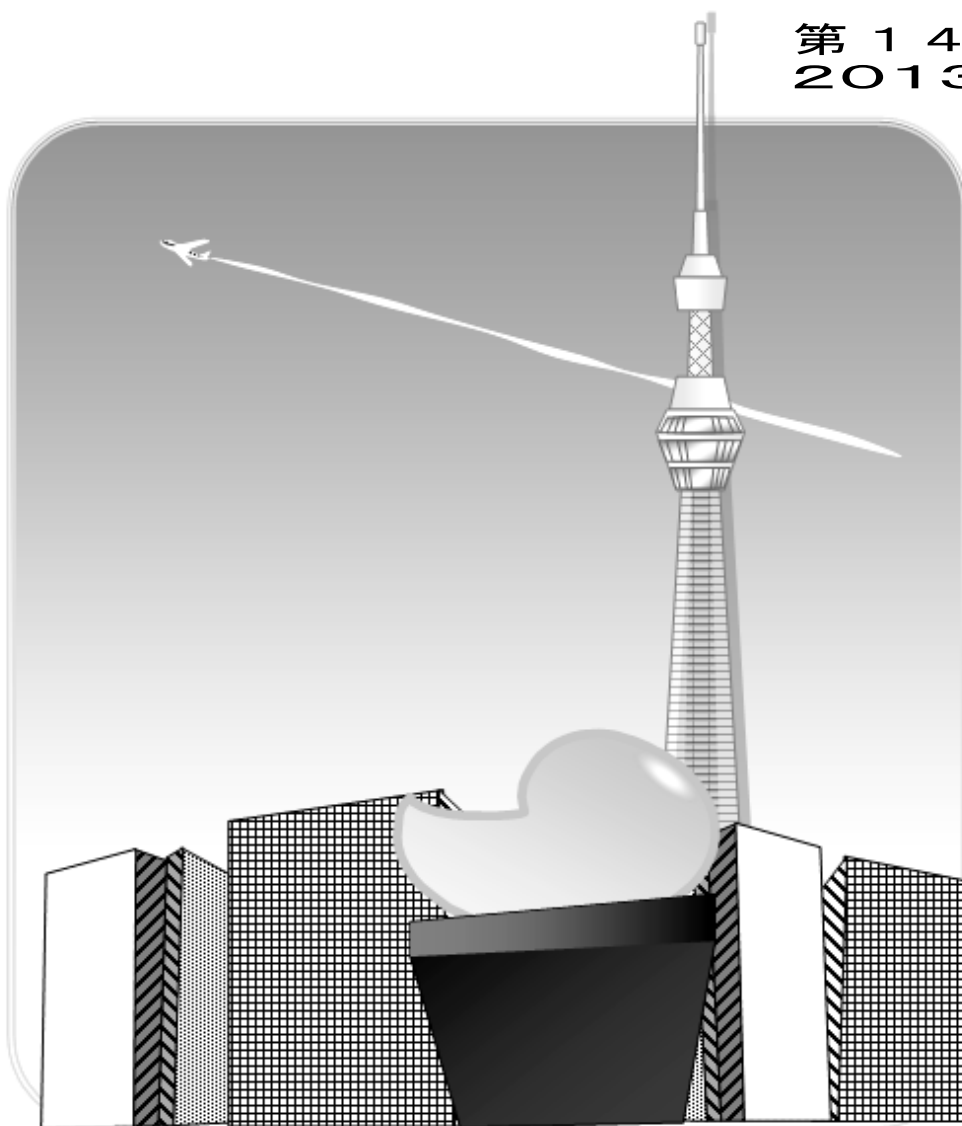


# 東部の学校事務

第14号  
2013. 3



子どもたちの夢をはぐくみ、

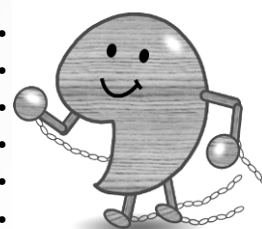
学校経営に主体的に参画する学校事務職員

埼玉県東部公立小中学校事務研究協議会

# 【目次】

|            |    |
|------------|----|
| 会長あいさつ     | 1  |
| 全体的事業報告    | 2  |
| 全体研修会並びに総会 | 4  |
| 初任者研修会     | 6  |
| 学校事務職員研修会  | 8  |
| 研究大会       | 10 |
| 全国大会参加報告   | 12 |

|                                  |          |
|----------------------------------|----------|
| 常任理事会の一年                         | 14       |
| 各部活動紹介                           | 16       |
| 総務部活動報告                          | 17       |
| 研究部活動報告                          | 18       |
| 研修部活動報告                          | 19       |
| 知識共有部活動報告                        | 20       |
| 広報部活動報告                          | 21       |
| 市町事務研活動報告                        |          |
| 行田市 …… 加須市・羽生市 …… 春日部市・越谷市 ……    | 22 23 24 |
| 蓮田市・久喜市 …… 白岡市・宮代町 …… 幸手市・杉戸町 …… | 25 26 27 |
| 八潮市・吉川市 …… 松伏町・三郷市 ……            | 28 29    |
| 初任者の一年                           | 30       |
| 編集後記                             | 32       |



広報キャラクター

「とぶ★たまちゃん」



# 会長あいさつ

## 櫻井恵美子

平成24年度の本会の事業も無事終了し、所期の目的として考えていた「共同実施の基本的なことを研究し情報提供する」二会員の皆様に各事業へご参加いただき、共同実施に関する理解を深める」を達成することができたのではないかと思っております。会員皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

さて、現在、公教育を取り巻く環境が大きく変化しそうな社会状況となっております。

中でも、これまで教育委員会は、首長から独立した機関でありましたが、その形骸化や教育界の閉鎖性が問題視されるようになってきました。そして、地方分権化が進む中、教育に住民の声を反映させるため、その見直しが求められるようになってきていることは重要な

なことであり、今後多方面に影響を及ぼすのではないかと考えられます。

そのような中、私たち学校事務職員にとっても、平成24年度は大きな変革の年でありました。

国レベルでは、コミュニティ・スクールへの事務職員の加配が予算化されました。県レベルでは、県費事務システムの稼働、新たな昇任制度の導入、新任事務主査研修の新設などがありました。特に、県教委より「共同実施に関する方針」が平成24年3月に出された今、その対応が大きな課題となっておりと認識しております。

今年度は、5月の全体研修会、10月の学校事務職員研修会、12月の研究大会と、ほぼ全ての全体的事業において、「共同実施」を主

たるテーマに掲げ開催しました。どの会にも、概ね200名という多くの会員の皆様のご参加を得、アンケートからも、「共同実施」についてよく理解できた、取り組んでいきたい、などの前向きなご意見をいただき、大変良い評価をいただくことができました。

今年度の事業を振り返り、私なりにこの結果を分析しておりますが、まずは魅力ある講師や助言者をお招きしたこと、会員の皆様の弛みない研修意欲などによること、大きな要因であると思います。そして、「共同実施」が会員共通の課題であり、大きな関心事であるということも改めて実感しました。一方、全体的事業とともに、各専門部の日常的な活動においても、主体的・意欲的な取り組みがなされ、特に横の連携が十分図れた一体感のあるものでありました。

発表及び提案を行いました。広報部、知識共有部では、日頃の広報活動、知識共有活動において、会員に親しまれ、活用されるよう工夫を凝らした斬新な企画を展開しましたし、今年度はどちらの部もパネル展示及び説明を行いました。また、これらの部が安心して日頃の活動や研究大会の発表などに専念できるのも、研修部が各事業を行うにあたり、綿密な計画ときめ細かな運営を心がけているおかげであると思います。研究大会では研修部が「研修報告」を手がけたことにより、さらに一体感が増しました。そして、前面には出ませんが、総務部が財政面や文書など最も基本となる部分を担当し、正副理事長などとともに全体を見渡していることも本会の強みであります。

最後に、本会の運営に携わってくださった理事や連絡員など他の役員の皆様、本当にありがとうございました。



# 全体的事業報告

## 副会長 飯島由美子

東部公立小中学校事務研究協議会では、全体的事業として4つの大きな事業を行っております。各事業の詳しい内容は4ページ以降に記しますので、ここでは概要についてご紹介いたします。

### ◎全体研修会並びに総会

平成24年5月17日（木）

久喜総合文化会館 小ホール  
全体研修会では二つの研修を行いました。

まず、久喜市立菖蒲東小学校・中島麻子氏からは「平成23年度学校組織マネジメント指導者養成研修」の報告がありました。写真を交えながら、研修の様子がよく伝わってくる報告でした。

次に、新潟市教育委員会教職員課管理主事・金井洋子氏から、「共

同実施で変わる学校・学校事務」新潟市の共同実施から」というテーマでのご講演がありました。「変化に対応できなかった事務職員は辞めていった」という先生のお話が印象的でした。

続く総会では、全ての議案が無事可決承認され、平成24年度の東部事務研の活動がスタートしました。

### ◎初任者研修会

平成24年7月27日（金）

春日部地方庁舎 大会議室  
経験3年未満の事務職員を対象にした初任者研修会では、黒澤総務・給与担当課長による講義、糸井副理事長による講話、3名の初任者による実践報告に引き続き、メインであるグループ別討議を行

いました。

今年度は対象者が50名を越え、東部管内でも若い事務職員が増えてきていることを実感しました。非常に活発な話し合い、そして堂々としたまとめの発表と、若いみなさんのパワーを感じた研修会でした。

### ◎学校事務職員研修会

平成24年10月18日（木）

久喜総合文化会館 小ホール  
学校事務職員研修会は、昨年までのグループワークから、講義形式に形態を変えて行いました。講師の佐賀市立城南中学校事務長・古川治氏からは「学校事務の共同実施 佐賀県での取り組み」というテーマで講演をいただきました。途中、古川先生からのご指名で、研究部員が登壇して共同実施の様子を再現する場面もありました。古川先生の学校事務に対する熱意と、エネルギーシユなお話ぶりに圧倒された研修会でした。

### ◎研究大会

平成24年12月13日（木）

春日部市民文化会館 小ホール  
最後の大きな事業は研究大会です。新たな試みとして「新規採用・新任事務主任・新任事務主査研修報告」を行い、参加者からは「県で行われている研修の実際の様子がよくわかった」という感想が聞かれました。

また、発表を行った研究部はもちろん、パネル発表を行った知識共有部・広報部、大会全体の運営を支えた研修部・総務部と、全ての部の力が総合され、全員で盛り上げた研究大会となりました。

一年間の東部事務研の活動を通して、若い理事さんの頑張り、中堅層の成長、そしてそれを支えるベテランのみなさんの力強さを感じることができました。

最後になりますが、東部事務研の会員の皆様のご協力に感謝いたします。



## 全体研修会並びに総会

参加者数 205名



## 初任者研修会

対象参加者 50名



## 学校事務職員研修会

参加者数 208名



## 研究大会

参加者数 207名





# 平成24年度

## 全体研修会並びに総会

平成24年5月17日（木）

久喜総合文化会館 小ホール



平成24年5月17日 久喜総合文化会館を会場に、平成24年度全体研修会並びに総会が開催されました。

開会式では関根副会長からの「今年度は県費事務システムが稼働し来年度からは共同実施が導入されます。これらは事務職員の執務・職務環境を変える大きなターニングポイントとなります。成功の反対は失敗では無く、挑戦をしないことだと言えます。私たちも挑戦をしてまいりましょう」との開会の言葉を皮切りに、今年度の全体研修会は始まりした。

研修報告では久喜市立菖蒲東小学校・中島麻子氏による「平成23年度学校組織マネジメント指導者養成研修」参加報告がありました。続いて行われた、新潟市教育委員会教職員課管理主事・金井洋子氏を講師にお招きした講演では、来年度から埼玉県でも実施される共同実施について、大変参考になるお話を伺いました。

### 研修報告



独立行政法人  
教員研修センター主催

平成23年度学校組織マネジメント指導者養成研修（第4回）

小・中学校事務職員

久喜市立菖蒲東小学校

事務主任 中島麻子氏

学校組織マネジメント指導者養成研修は、喫緊の重要課題について、地方公共団体が行う研修の講師や、その企画・立案などを担う指導者を養成するために、毎年2月下旬に5日間の日程で、つくば市にある独立行政法人教員研修センターにて開催されています。

平成23年度のマネジメント指導者養成研修には、全国から過去最多の187名の参加者が集まったこともあり、「教育改革の動向と学校経営」・「新学習指導要領とこれからの学校運営」・「学校の危機管理」などの講義の他に、班別で行う課題協議も、とても充実した研修であったと報告されました。



## 講演

### 演題

「共同実施で変わる学校・学校事務」

### 講師

新潟市教育委員会教職員課

管理主事 金井 洋子 氏

金井氏は、平成12年度から新潟県公立小中養護学校事務職員研究会の副会長・会長を務められ、平成18年度からは全事研の副会長を務められるなど要職を歴任されました。

平成20年度からは文部科学省中央教育審議会の委員も務められ、現在では新潟市教育委員会教職員課において後進の指導をされています。その経歴と現在の立場から、来年度より埼玉県でも実施される共同実施について、私たちが進むべき道をご示唆いただきました。

### I 諸政策からみえる共同実施への期待

復習までに、平成22年の「新・公立義務教育諸学校教職員定数改善計画」では、事務職員の配置の

充実と複数配置による学校事務処理体制の充実がうたわれています。

それに遡り、平成10年の文部科学省の小委員会では、学校間連携による事務・業務の共同実施ということが言及され、この頃より「共同実施」という言葉が私たちの中で広く使われるようになりました。

平成16年の中央教育審議会初等中等教育分科会 教育行財政部会では、学校組織体制の整備が重要な検討事項とされました。

その一つに事務処理体制の整備が必要であり、共同実施や事務長の設置など効率的な事務処理の推進が検討され、今日では全国に波及しつつある、共同実施と事務長の制度化が進められました。

### II 新潟県の共同実施

そのような流れの中、新潟県でも、平成19年度までは、加配を受けた一部の地域のみで、共同実施を行っていました。

しかし、平成20年度には今後

10年間を見据えると、新潟県の現職約800人中の約500人の事務職員が定年を迎えることになり、

そのような状況下では事務処理体制の維持どころか、事務機能そのものが低下すると危惧した県教育委員会が、共同実施の重要性を強く認識することにより、積極的に共同実施を推し進めたことで、全県でも共同実施が行われるようになりました。

### III 新潟市の共同実施

県から遅れて一年後、新潟市でも県の要綱をもとに、全市内<sup>23</sup>グループに別れて共同実施が開始されるようになりました。

平成24年度からは24グループになり、新たに地域学校事務支援室を開設することにより、共同実施をさらに発展させています。

### IV 地域学校事務支援室…みえる大きな可能性

地域学校事務支援室は、地域連携コーディネータの役割と、所轄

する学校の学校経営支援を目的に開設されました。

地域学校事務支援室は、総括的事務主幹（経験3年以上の事務主幹）が室長を務め、市内全174校が属する24グループを、東・中央・西の3つに分け、各支援室が8グループずつの連絡・調整・助言役をすることにより、全市的な学校事務課題協議の運営を行い、給与事務に関する、教職員の相談室の役割や、地域連携コーディネータとしての重役も担っています。

### V 共同実施で変わる学校・学校事務

新潟市では、事務の合理化・効率化の取組として、平成24年1月より、共同実施の発案で「学校日誌システム」が導入され、出勤簿・年休簿・旅行命令簿などの服務関連書類がオンライン化されました。事務長を共同実施の長とするのであれば、事務職員のキャリア形成にもなり、一歩進んだ次への期待へと繋がっていくと思います。



平成24年度

初任者研修会

平成24年7月27日(金)

春日部地方庁舎 大会議室



平成24年7月27日 春日部地方庁舎大会議室において、初任者研修会が開催されました。今年度の対象者は例年よりも多く、班別討議では南会議室も使用し、2部屋に分かれての開催となりました。

### 開 会 行 事

櫻井会長からは、「初任者の皆さんは信頼される事務職員を目指して仕事をされていると思います。」

昨今、学校事務の在り方は県議会や新聞報道でも取り上げられるようになり、社会の関心も高まっています。今回の研修でその目標に少しでも近づいて下さい」

飯田容崇副所長からはロンドン五輪で、組織力で勝った日本代表が『無敵艦隊』と称されるサッカーの強豪スペイン代表を、みごとに破った快挙になぞり「皆さんも学校組織の強力なマネジメントスタッフとして、これからも重要な役割を担って欲しい」と、それぞれあいさつがありました。

### 全 体 会

#### 事務研活動について

木村理事長より「事務研とは、全国・関東・県・市町などの単位で組織され、任意団体ではありませんが、それぞれが服務監督者の要請に基づき組織されています。」

会費も公費から支出され、研究・研修も自らで積極的に行っております。事務職員は一人職のため、コミュニケーション能力と、今後は協働も求められるようになります。各事務研主催の研修に積極的に参加することにより、事務職員としての資質向上に役立てて下さい」

#### 研究部活動について

中島研究部長と2名の研究部員による活動紹介より「研究部の研究活動を通しては、様々な経験と勉強ができますので、ぜひ熱意のある方は、研究部へご参加下さい」



## 講義

教育事務所 黒澤総務・給与担当課長より「給与事務の仕組み」

「仕事に取り組むにあたっての心構え」などの講義がされました。

講義からは「仕事のプロフェッショナルを目指して下さい。地方

公務員法により、私たちは研修を受ける機会を与えられており、それらを最大限に活用しスキルアップをして下さい」「事務職員は電話応対・接遇などの機会も多く、学校の第一印象となり得ます。常に学校の顔であることの意識を大事にして下さい」とのお話が印象的でした。

## 実践報告

経験3年目の事務職員3名による、実践報告がされました。

●羽生新郷第二小・濱野事務主事  
「事務職員は一人職のため間違えに気づかないことがあります。そのため、わからないことは積極的に

に周りの人に聞き、教えていただいたことは忘れずにメモを残し、

それをもとに自分でもよく調べるようにしましょう。予算執行には前年の内容を繰り返し見直すことで、恒常的な支出を把握することができます」

●越谷千間台小・西脇事務主事

「大規模校のため2名配置校に勤務をしています。1年目は先輩に教えていただきながら、仕事を覚えていきました。2年目からは事務処理日程のスケジュール管理に重点を置き、仕事の優先順位を付け、月ごとに計画的に仕事を進めることを心がけました」

●加須市加須北中・高橋事務主事

「3年目の経験から、2年目は1年目に比べて仕事の流れが掴みやすくなります。事務処理を先回りして処理する余裕もでき、周りが良く見えるようにもなりますので、仕事のしやすい環境づくりや、裏紙の使用などの呼びかけをし、職員の節約意識を高めるように心が

けました」

## 講話

糸井副理事長より

「学・校・じ・む・し・よ・く・い・ん」9つの字をなぞり学校事務職員としての心構えについて話しました。

●学（私たちは）学校事務職員である前に学校職員です。学校や子どもたちのために、何ができるかを常に考えましょう。

●校 校務が第一です。事務職員の仕事は埼玉県が定めた標準的職務内容が基本となります。その内容を時間がある時に調べて下さい。

●じ 自分に都合の良い解釈をしない。私たちの仕事には必ず法的根拠があります。自分で都合の良い解釈をせずに、それらを良く理解し仕事にあたって下さい。

●む 無責任にしない、無責任にならない。常に説明責任を意識し、誰が見てもわかりやすい書類づくりを心がけましょう。

●し 信じられる人、頼れる人をみつける。悩み苦しみを分かち合える良い仲間づくりをして下さい。

●よ 余裕を何事にも持つ。余裕を持つて、計画的に仕事を進めれば突発的な事にも冷静に対応ができます。

●く くよくよしない、腐らない。仕事をしていく上で、悩むことがあります。くよくよとせず前を見て前進しましょう。

●い 言い訳をしない。給料をもらっている以上、私たちはプロです。忙しかった：時間が無かった：は、理由にはなりません。

●ん んん、とにかく明るく楽しく過ごしましょう。落ち込んでも楽しくても、同じ一日。ならば、楽しい雰囲気職場づくりを心掛けましょう。

グループ協議の内容は  
平成24年11月15日 発行  
広報「とうぶ」第39号にて  
特集をいたしましたので  
是非、そちらをご覧ください。





平成24年度

事務職員研修会

平成24年10月18日(木)

久喜総合文化会館 小ホール



佐賀県佐賀市立城南中学校事務長  
佐賀市城南学校運営支援室室長  
古川 治 氏



平成24年10月18日(木) 久喜

総合文化会館にて、佐賀県公立小  
中学校事務研究会長 古川治氏を  
講師にお招きし、学校事務職員研  
修会が開催されました。

佐賀県では平成20年度より共  
同実施が全県で導入され、さらに  
平成23年度には管理職事務長制  
が導入されています。講師の古川  
先生は、佐賀県公立小中学校事務  
改善検討委員会の委員として、佐  
賀県の共同実施の中心となり推進  
されました。そのため、今年度の  
事務職員研修会では、共同実施の  
基本的な考えから目指すものまで、  
説得力のあるお話を伺うことがで  
きました。

## ◎開 会 式

開会式は、飯島副会長の開会の  
言葉より始まり、櫻井会長からの  
共同実施についての埼玉県の現状  
などの話に続き、来賓として参加  
された飯田副所長からは、日頃か  
らの適切な事務処理について、感  
謝のお言葉をいただきました。

「学校事務の共同実施 佐賀県での取組」

「管理職事務長制による共同実施組織と  
新しい学校事務制度の確立」

## ◎は じ め に

世の中の流れはとても早く、学  
校事務だけがこのままで良いわけ  
ではありません。共同実施とは降  
って湧いて出てきたものでは無く、  
平成7年の全事研岐阜大会分科会  
での提案に端を発し、以後、関係  
する多くの方々の努力によって、  
平成10年の中央教育審議会の答  
申「地方教育行政の在り方」の中  
で共同実施が言及されるまでに至  
ったのです。

私は、それ以前では「大阪の事  
務センター」を事務制度の理想と  
しておりましたが、佐賀県の財政  
状況などからそれは難しく、全事  
研の岐阜大会で共同実施が取り上  
げられたことを機に、共同実施な  
らば、佐賀県でも進められるので  
はないかと思ったのです。

しかし、それ以前の佐賀県では



事務研すら存在せず、(各地区を管轄する)事務所によつては、仕事の内容もそうですが、書類の様式も認定権者さえまちまちの状態で、統一がされていませんでした。

### ◎ 佐賀県の状況と学校事務の現状認識

これでは良くないと思い、平成9年に「佐賀県公立小中学校学校事務研究会」を成立させました。平成12年には、県教委に何度も掛け合い(話しが、まとまろうとする度に、担当者が転任をしてしまった)りするため)内容は不十分であったとは思いますが、佐賀県の「小中学校職務標準表」の通知にまでこぎ着きました。

平成19年には「佐賀県公立小中学校学校事務改善検討委員会」を発足させ、「共同実施をベースにした学校事務組織を全県につくる」を佐事研ビジョンとして掲げ、現在に至る共同実施を推進しました。

そして、いよいよ平成20年に佐賀県でも共同実施が全県でスタートしました。2年後の平成22年に

は、当時、不十分であったと思われる「小中学校職務標準表」に職階制を組み入れた、改正「小中学校職務標準表」が設けられることになったことにより、翌平成23年からは管理職事務長が誕生し、共同実施の現場に「責任と権限」が得られるようになるまでになりました。(あくまでも、管理職事務長は、目的ではなく手段である。しかし、管理職でないと始まらないところがあるのです。)

### ◎ 管理職事務長制度での変化

・ 県費3手当の認定権が事務長になった

事務長が認定権(専決ではなく県教委から直接委任による認定権であり、支援室長の「公印」も所持)を持つ事により、それ以前の教育事務所や県教委教職員課が認定をしていた時代より、格段に認定誤りが減りました。

認定をする上では、公金を扱う以上「先生方の味方では無く、県民の味方である」をモットーとし、共同実施の場で厳密・慎重に審議

をし、最終的には副室長との確認の上で認定をしています。

・ 支援室学校の配当旅費の調整を事務長の判断で行うこと

県全体で約一千万円の旅費の浮遊額があつたにも関わらず、林間・修学旅行の旅費を支給するだけで予算が枯渇する学校もある、という不条理が、支援室内の事務長の判断により、予算に余裕のある学校から、余裕のない学校へと予算の調整ができるようになり、大きく改善されました。

・ 市費予算の事務長専決額の設定

佐賀市では、校長に市費予算の専決額100万円の内、事務長に5万円の専決額が設定されました。

・ 県教委・市教委・校長会から極めて評価されている

各手当の誤認定が格段に減少し、県教委からは共同実施に対し率直に、「あなたたちは、本当に良い制度を作られましたね」と極めて高い評価をされました。

### ◎ 共同実施と管理職事務長制について

共同実施とは共同作業のことでなく、決して相互審査会のレベ

ルで満足をしてはいけません。それでは(佐賀県の)管理職事務長が持つ「責任と権限」が付与されません。共同実施とは、主事と主幹が同じ仕事をするのではなく、職階を積むことにより定型業務などの作業事務から、より高度で責任のある判断的業務へと推移する「キャリア形成」を伴って、組織化された行政機関でなくてはならないのです。

### ◎ おわりに

佐賀県の共同実施は完成形だとは思いますが、作業事務だけでは間違いなく、この職はアウトソーシングをされます。平成7年には「これだ!」と思った共同実施とは、判断的業務にシフトするため一つの手段にすぎず、これさえやれば私たちの仕事が安泰であるというわけではありません。まだ他に良いプランがあるのかもしれない。しかし、現状ではこれ以上のプランは無いと思つて、私たちは、一生懸命やっているのです。



# 平成24年度

## 研究会

平成24年12月13日（木）

春日部市民文化会館 小ホール

平成24年12月13日（木）春日部市民文化会館を会場に平成24年度の研究大会が開催されました。

### 開 会 式

開会式では岡田副会長の開会の言葉から始まり、櫻井会長のあいさつに続きまして、ご臨席賜りました来賓各位より、研究大会開催についてご祝辞をいただきました。その中でも、春日部市教育委員会植竹英生教育長からの、過去に一緒に仕事をした事務職員との思い出話から「これからも学び続ける事務職員、子どもたちの事務職員でいて下さい」のお言葉と、本会顧問松井石根氏からの「過去と現在の延長線上には、未来は無い」とのお言葉が印象に残りました。

広報部・知識共有部パネル展示説明

広報部は広報キャラクターの

「とぶ★たまちゃん」によるパネ

ル紹介。知識共有部はリアル

J-BOX から発表者が登場するな

どそれぞれに趣向を凝らし、パネ

ル展示の説明をしました。



### 教育事務所行政説明

東部教育事務所 黒澤総務・給

与担当課長より、地方財政と県政

についての説明に続き、県の人事

委員会報告についてと、9月より

実施された県費事務システムにつ

いての説明がありました。

新規採用・新任事務主任・新任事務主査研修報告  
初任者研修報告



配属前に行われる「内定者の集

い」では、採用前の不安が軽減さ

れました。全7回の初任者研修会

でいただいたお話や資料は、今改

めて読み直しても職務を遂行する

上で、とても貴重な内容であった

と気づかれます。

新任事務主任研修報告



全2回の事務主任研修では、仕

事をする上で、こころの健康が大

切であること。学校運営への参画

が事務職員に期待されていること。

などの内容で講義がされました。

そのためには勤務校のグラウンドデ

ザインを知ることが大切です。

新任事務主査研修報告



全2回の主査研修では、2日目

の『傾聴力研修』で相手と呼吸を

あわせる具体的な方法と、「オープ

ン質問」「クローズド質問」を使い

分けることにより、話し手のよ

り良い雰囲気を作る「上手な聞き

方」を学ぶことができました。

研究部発表・研究協議

昼食をはさみ、午後は栃木県宇

都宮市立旭中学校事務長檜山幸子

氏を助言者にお招きし、研究部発

表と研究協議が行われました。

学校事務職員の将来像を考える（1年次）

共同実施 なぜ 今なのか

はじめに

10年後の将来像と共同実施

これからの日本は高齢化が進み

人口の減少と経済の混迷などによ

り、否応なしに社会情勢が変化を

していきます。それは私たち事務

職員の仕事にも大きな変化を起こ

していくでしょう。そんな先行き

が不透明な時代であっても、直面

した課題解決に有効な方策として

考えられる「共同実施」について、

考えていきたいと思えます。

第 1 節

「学校事務の共同実施」に関する概要と経緯

共同実施について、過去10年間

の国や埼玉県の動向と東部地区の

取組などを紹介しました。



## 国の動き

平成10年の中央

教育審議会による答申の中の提言により、初めて「学校事務の共同実施」という考え方が言及されました。

その後2年間、全国に事務職員を加配して共同実施の研究・調査がなされ、その結果を踏まえ平成13年度の「第7次教職員定数改善計画」では、5年間で全国に726名の事務職員を加配することが盛り込まれました。

さらに、平成17年の答申では学校裁量権の拡大がうたわれ、その土台として共同実施組織に事務長を置くことが検討され、平成19年の教育再生会議でも、共同実施体制の整備を進める提言がされるまでに至ったのです。

## 県の動き

埼玉県でも国の動

きに準じて平成13年度より加配を受けて、現在までに延べ135名の加配がされています。平成15年に出された県教委の通知にも、事務の仕事効率化する動きがみられ、平成19年度より県全域で行

われている共同の業務として、旅費の相互確認が行われるようになり、今では重要な業務のひとつとして認識されています。

## 東部地区の動き

東部地区で

も平成13年度より、越谷市がパイロットモデルとして共同実施組織を立ち上げました。その後、羽生市・久喜市・杉戸町・行田市・加須市・蓮田市と、続々と共同実施組織が発足しました。

そのため東部地区では県教委が全県で行ったアンケートでも、共同実施を肯定的に捉えており、賛成意見が約60%と過半数を超え他地区に比べて群を抜いています。

## 第2節

アンケートから見る東部管内事務職員の意識

研究部が9月に、会員の意識調

査を前提として行ったアンケートの回答を分析しても、若年層は共同実施に対する諸事情の先入観が無く、自己研鑽の場として大いに期待しているのに対し、ベテラン層は共同実施を行うことで、自分

の職責が増すことなどの不安視がされているようで、導入に慎重であることがわかりました。

## 第3節

学校事務職員の将来像

将来像を模索する前に、現在の事務職員像を考察しても、「一人職の弊害」「職務の曖昧性」「谷間職」などの課題が浮き彫りにされます。

今回の研究を進めて正直に思うことは、やはり事務職員はこのままではいけないということです。

共同実施を積極的に進めた三重県・宮崎県・佐賀県の現況からも、共同実施とは、それらの課題を組織化によって解消するための、手段の一つであると思いました。

## 第4節

研究のまとめ

今年度の研究は過去8年間の研究を遡り、さまざまな角度から事務職員の将来像を考察しました。

その結果「事務職員自身の資質向上」と「事務の組織体制の強化」の重要性を改めて認識しました。

## 研究協議

助言者の檜山氏より、研究発表の感想と宇都宮市の「学校事務支援室」のお話を伺いました。

研究部の発表は、共同実施の歴史を紐解くなど、改めて学校事務の組織化の基本的な考え方が理解できた発表であったと思います。

「共同実施」は平成16年の中教審答申で学校事務の事務処理体制の脆弱さを克服する手段として提言され、現在では地域連携を進める組織の役割も求められています。その中で宇都宮市では、いわゆる中1ギャップ問題などから中学校区単位に「地域学校園制度」が導入されたのに伴い、小中一貫教育の推進の一端を担うと共に、地域連携に重きを置いた「地域学校園事務室」が全市で実施されています。（既存の共同実施が行う）県費事務の集中処理などは行っていないが「共同実施」とは、全国一律のやり方は無く、地域それぞれに最適な形があると思います。



# 第44回 全国公立小中学校事務研究大会 (茨城大会)参加報告

今年度の全事研の研究大会は

平成24年8月2日(木)・8月3日(金)の2日間の日程で

つくば国際会議場を会場に開催されました。

午前中は開会式に始まり、続いて行われた文部科学省の行政説明では、文部科学省初等中等教育局視学官・長尾篤志氏により平成26年度から実施となる「第2期教育振興基本計画」について、小学校では昨年度から、中学校では今年度から実施をされている「新学習指導要領」について、教育活動などの成果を検証し、学校運営の改善と発展を目指すために行う「学校評価」について、今現在、深刻な問題となっているいじめ・不登

## 文部科学省行政説明



## 第1日目



子どもの豊かな育ちを支援する学校事務



全国公立小中学校事務職員研究会  
http://www.zenjiken.jp E-mail: info@zenjiken.jp

zenjiken  
IBARAKI  
convention  
2012

## 大会テーマ

「子どもの豊かな育ちを支援する学校事務」  
踏みだそう！ みんなが元気な学校づくり  
子どもたちの未来へのスタート

校などの様々な課題への対応力が求められている「教員の資質能力の向上」についての4つの項目で行政説明がありました。

## 全体研究会

昼食をはさみ行われた全体研究会のオリエンテーションでは、研究開発部長・阿部貴子氏による大会テーマ「子どもの豊かな育ちを支援する学校事務」事務職員のキャリアデザインと能力」の説明を皮切りに、文部科学省初等中等教育局参事官付 学校運営支援企画官・松浦晃氏、兵庫教育大学大学院教授・日渡円氏、横浜市立市ヶ尾小学校長・落合孝氏をシンパ

ジストに招き「事務職員のキャリアデザインと能力開発」をテーマに、それぞれの立場からのお話をいただきました。

お話の中からは、これから事務職員に求められる役割について、企画力・実行力・情報収集力を身に付け、学校全体を客観的に見られる行政職員の立場から、強力な学校経営支援ができるように、今後研修・経験を重ねキャリアを積んでいきたいというお言葉がありました。





## 第2日目

### 分科会討議

大会2日目は6つの分科会に分かれての討議が行われました。初日と同じく、つくば国際会議場大ホールを会場に行われた本部研究分科会では、テーマを「学校力が向上する学校評価システムの構築と学校」として学校評価をメインとした提案と討議が行われました。

#### 第一節「学校評価の現状と課題」

学校評価導入の経緯から現状の課題について。現状では学校評価が学校改善に活かしきれておらず内容と取組の仕方には大きな課題がある。

#### 第二節「学校力の向上と望ましい学校評価」

これからの学校は地域との連携の中で、教育活動の見直しと学校運営の改善を進める学校評価を通じて学校力を向上させる事が重要になります。

#### 第三節「学校評価と学校事務機能」

学校運営の改善に有効な学校評価を高めるIR機能（企業が出資者に業績動向などを事細かに情報分析し周知すること）と、学校とかわる人々が学校理解を深めるためには学校広報は重要です。

#### 第四節「学校力の向上を図る学校評価システムと事務職員の役割」

全研セミナーと昨年の鳥取大会でのアンケートの検証結果から不十分であると推察される事務職員の学校評価に対する意識の向上が必要なことと、事務職員として学校力向上の実現に向け、様々な実践に取り組めることについて、本部研究分科会が出された各提案への質問に、助言者の茨城大学教育学部准教授・加藤崇英氏は、その場で作成したパワーポイントを駆使し、とてもわかりやすく返答をされていました。

その後の講演も参加者は皆、とても興味深そうに耳を傾けていました。

## 研究部参加者の感想

全国大会が隣県の茨城県で行われるということで、研修を積む絶好の機会であると考え、参加してきました。

行政説明では、文部科学省の教育施策について勉強しました。全体研究会の基調報告では、事務職員の役割はマネジメントを通じた校長の補佐であり、キャリアデザインを通してマネジメント力を強化することが必要という話が印象に残りました。

シンポジウムでは、日渡先生の最後のコメントが特に強く印象に残っています。地域の思いを体現するため、学校は地域情報を得るための大きなパラボラアンテナを張る必要がある、それこそが事務職員なのだ、というものです。

全体を通して、社会・学校が変化する中、事務職員がより多くの役割を果たすことができる可能性を感じた1日目でした。（野中）

2日目は本部分科会に参加しました。学校評価の重要性と、そこに事務職員が積極的に関わっている可能性を感じました。助言者としていらついていた加藤准教授の話がとても明快でわかりやすく、特に「制度設計」という言葉が印象に残りました。評価システムを形骸化させることなく、真に教育効果へと結びつけるためにはどのような制度設計が必要か、その有用性を設計者の視点から語られていた所が、とても説得力があつてなるほどと思いました。

また全国各地からの参加者が盛んに意見交換をしていて、とても刺激的でした。東北の被災地からの参加者もいて、被災地の現状と、その中で学校事務職員ができることを熱く語っている姿が印象的でした。それぞれの地域でそれぞれの学校事務があり、皆が一同に会して意見し合う全国大会は、とても貴重な場だと思いました。

（長谷川）





# 常任理事会の一年

## 第1回 常任理事会

平成24年6月15日(金)

会場 幸手市民文化体育館

内容

- 全体研修会並びに総会の反省・課題について
- ・事前準備について
- ・全体研修会参加者のアンケート結果からの考察 … 概ね好評

## ○事業計画細案について

・初任者研修会細案について

平成24年7月27日に開催決定

・学校事務職員研修会細案について

平成24年10月18日に開催決定

・研究大会の概要について

平成24年12月13日に開催決定

## ○各部事業計画と課題

・各部の活動目標と、事業計画について

○予算執行計画細案について

## 第2回 常任理事会

平成24年8月30日(木)

会場 杉戸町立西公民館

内容

- 初任者研修会の反省課題について
- ・参加者のアンケート結果からの考察 … 概ね好評であった

## ○学校事務職員研修会計画細案について

・日程及び受付時間の確認

・内容についての確認

・開催文書の内容など庶務の確認

・管外参加者の受付窓口について

## ○研究大会について

・研究大会テーマについて

・日程と内容の検討 … 今年度は新任事務職員研修・事務主任研修・事務主査研修の報告を新たな内容に盛り込む。

## 第3回 常任理事会

平成24年11月13日(火)

会場 杉戸町立西公民館

内容

- 研究大会について
- ・開催通知の配布方法の確認
- ・リハーサルの確認
- ・知共部、広報部パネル枚数確認
- ・管外へのPRと窓口について
- ・評議員会の運営について

## ○学校事務職員研修会反省課題について

・参加状況について…参加者が例年に比べ倍増する。共同実施に対する会員の意識の高さが伺える。

・参加者のアンケート結果からの考察 … 概ね好評であった

## ○各部の研究大会にむけての活動状況報告

・総務部…研究大会の開催通知について

・研究部…集録と発表内容について

・研修部…設営図と研修報告について

・広報部…パネルとPR版について

・知共部…パネル発表について

## 臨時 常任理事会

平成24年11月27日(金)

会場 春日部市民文化会館

内容

- 研究大会の日程・役割分担の最終確認
- ・研究大会当日配付資料の確認
- ・来賓と管外参加者数の確認
- ・来賓駐車場の確保について
- ・評議員会の運営について
- ・講師、助言者への謝礼などの確認
- ・研究部発表と新採用研修などの参加報告のリハーサルについて







## 第4回 常任理事会

平成25年1月11日(金)

会場 松実高等学園

内容

- 研究大会の反省・課題について
- ・ 参加者のアンケート結果からの考察：概ね好評であった
- 平成24年度事業のまとめと課題検証
- 平成24年度予算執行現状報告
- 平成25年度事業計画案の検討
- 平成25年度予算書案の検討
- 各部活動状況報告

~~~~~

○ 役員研修会

- ・ 平成24年度事務研事業の概要報告
- 1 全体研修会並びに総会 平成24年5月17日に開催 会場 久喜総合文化会館 参加者数205名

2 初任者研修会 平成24年7月27日に開催 会場 春日部地方庁舎 対象参加者50名

3 学校事務職員研修会 平成24年10月18日に開催 会場 久喜総合文化会館 参加者数208名

4 研究大会 平成24年12月13日に開催 会場 春日部市民文化会館 参加者数207名

・ 本会顧問より指導と助言

【全体的事業報告について】

・ 栃久保氏より：事務職員研修会では、講師の古川氏のお話はとても熱意を感じて、良い講演であったと思います。諸事情により参加できず、あのお話を聞けなかった方がいらっしやることは、残念なことに思います。

【今後の学校事務の組織について】

・ 松田氏より：採用から退職まで同じ仕事をしている職を、これらの世間がどう捉えるかは解りません。

・ そのようなことから、どのような形にしろ、共同実施の組織は形にしておいた方が宜しいと思います。



## 第5回 常任理事会

平成25年2月27日(水)

会場 杉戸町生涯学習センター

内容

- 評議員会内容確認
- 平成24年度事業のまとめと課題検証
- 平成24年度予算執行現状報告
- 平成25年度事業計画案の検討
- 平成25年度予算書案の検討
- 各部活動状況報告

総務部・研究部・研修部・知識共有部・広報部

平成24年度事業報告

平成25年度事業計画の報告

## 第6回 常任理事会

(予定)

平成25年4月11日(木)

会場 杉戸町立西公民館

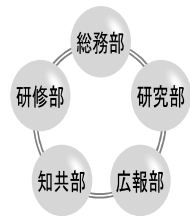
内容

○ 平成25年度全体研修会並びに総会について





# 各部活動紹介



理事長 木村 公一  
副理事長 糸井 隆之

**木** 本年度の東部事務研事業もほぼ終了、となつてまいりました。ここで各部の活動を正副理事長二人で振り返つてみたいと思います。

**木村（以下 木）** 本年度も大きな四事業を開催する以外にも、各部の協力体制が整つていて、大変助かりましたね。

**糸井（以下 糸）** 本当ですね！各部が目標を持ち、役目を全うしながら一つのを作り上げられた・・という感じですね。

**木** 常任を中心に横の連携がうまくとれ、「適材適所」で存分に力を発揮してくれたと思います。

**糸** 総会・全体研修会に始まり、初任者研修会、学校事務職員研修会、そして研究大会という本会のいわば集大成で幕を閉じましたね。

**木** では、今年は各部の活動、いや活躍を振り返りつつ、正副理事長から見た「各部の課題」も語らせてもらいましょう。

**糸** そうですね。まずは総務部から。

## 総務部

**木** 各事業の開催文書立案・作成に始まり、研究集録などの冊子・資料の配布、予算書の作成・執行・決算書の作成、他団体からの調査

集計と多岐にわたって活躍中！

**糸** ある意味、全体を見渡せる要の部ですよ。事務職員のな一見地味な存在ですが、総務部には、まだまだ活躍できる場があるような気がしますね。

## 研究部

**糸** 研究は会の根幹ですが、それを担う研究部。本年度の大会でも、『これからの学校事務職員像について』として研究発表だけに留まらず、若い力で研究協議にもチャレンジしました。

**木** 今後のテーマが気になるところです。事務職員のこれからのためにコンセンサスを形成させるなど、オピニオンリーダーを目指してもらいたいですね。

## 知共部

**糸** 日々、知識共有の推進に奮闘し、J-BOXでは閲覧人数を増やすため、次々と真新しい企画を提供してくれた知共部！

**木** 研究大会では趣向を凝らしたパネル展示も好評でしたね。

**糸** 『絆』のメッセージもインパクト大でしたもんね！

**木** どんどん進む電子化。今後はスピード感とセキュリティの兼合いが重要な？

## 研修部

**糸** 全ての研修会の運営の主担当として大車輪の活躍だった研修部でしたね。

**木** 運営だけではなく、研修会の立案・計画から反省・アンケート集計・報告と大活躍でした。

**糸** 今後もそれら貴重なデータを活かして、よりよい研修会企画を期待したいですね。

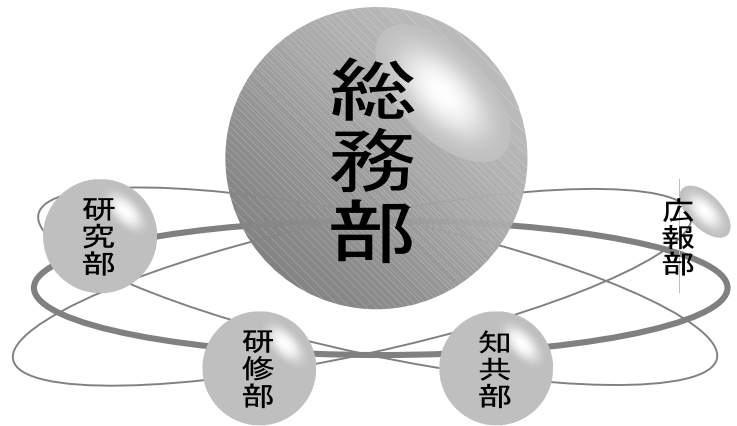
## 広報部

**木** 最後は情報発信の要、広報部。毎回ユーモアあふれるアイデアで周囲を驚かせてくれますよね。

**糸** 部会時も意見が活発に飛び交い充実していますよ。

**木** 研究大会のパネル展示は毎年楽しませてくれますしね。

**糸** ただ不安は、今後のアイデアの行き詰まり…？ がんばれ！



## ◎ 活動目標 ◎

『各部の活動をサポート、  
各市町との連絡調整』

部長 三浦幸治

副部長 新井陽子

副部長 鈴木康子

蓮見友宏・黒崎洋子

阿久津都

## ◎ 活動内容 ◎

### 第1回 総務部会

平成24年6月6日（水）

幸手市民文化体育館

主な内容

- ・各役割分担
- ・分掌内容の検討、確認

### 第2回 総務部会

平成24年11月27日（火）

春日部市民文化会館

主な内容

- ・研究集録の各市町への配布
- ・研究大会最終確認

### 第3回 総務部会

平成25年2月6日（水）

幸手市民文化体育館

主な内容

- ・平成24年度 事業のまとめ
- ・平成25年度 事業計画の検討

### 第4回 総務部会

平成25年3月8日（金）

久喜市菖蒲文化会館

主な内容

- ・平成24年度 会計監査

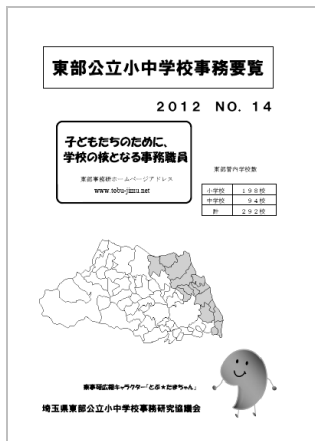
### 第5回 総務部会

平成25年5月8日（水）

杉戸町立西公民館

主な内容

- ・役員名簿・役員委嘱状の作成
- ・全体研修会並びに総会の準備



## ◎ 一年間の活動を通して ◎

総務部の活動というと、お金（予算執行・諸帳簿の管理）と、配り物（他団体から届く印刷物を、各班連絡員へ配布）と思われる方が多いかと思いますが、我々学校事務職員のように、すぐにはイメージできない、様々なことを担当しています。

会員名簿の作成

役員委嘱状の作成

役員名札の作成

胸花の管理

ご来賓の皆様の接待

研修会・研究大会等の開催文書の作成

の作成

研究大会での会員外受付

研修会・研究大会等の参加票を

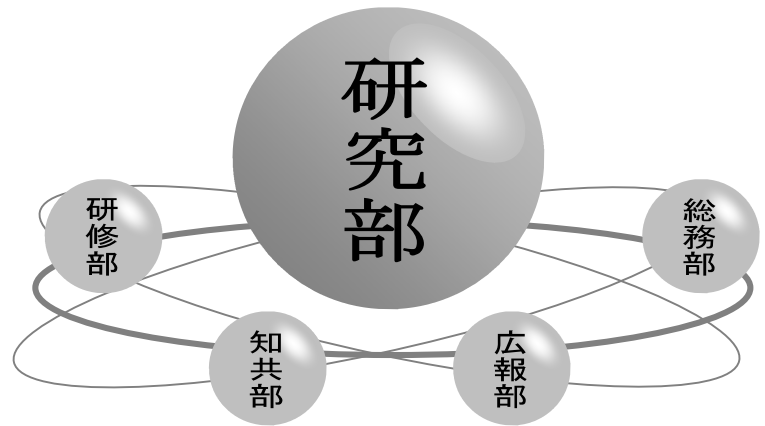
もとにした参加状況の把握

研修会・研究大会等の参加票を

もとにした個人別出席簿の作成

・・・などです。

今後とも総務部の活動に、東部事務研会員の皆様のご理解ご協力を、よろしくお願い致します。



## 活動目標

『学校事務職員の将来像を考える』  
～ 共同実施 なぜ 今なのか ～

部長 中島 麻子  
副部長 池田 将樹  
副部長 長谷川 哲也  
若林 麻里子・長澤 健  
石井 裕康・野中 厚徳

## 活動内容

第1回 研究部会

平成24年6月6日(水)

幸手市民文化体育館

主な内容

・事業計画について

・活動計画の立案

第2回 研究部会

平成24年7月11日(水)

松伏町まつぶし緑の丘公園

第3回 研究部会

平成24年8月9日(木)

松伏町まつぶし緑の丘公園

第4回 研究部会

平成24年8月28日(火)

松伏町まつぶし緑の丘公園

第5回 研究部会

平成24年9月26日(水)

杉戸町立西公民館

第6回 研究部会

平成24年10月26日(金)

松伏町中央公民館

第7回 研究部会

平成24年11月9日(金)

杉戸町立西公民館

第2回 ～ 第7回

主な内容

・研究内容の検討について

・活動計画の立案

(研究集録、調査活動、研究発表)

第8回 研究部会

平成24年11月27日(火)

春日部市民文化会館

主な内容

・研究大会研究発表リハーサル



第9回 研究部会

平成25年2月6日(水)

幸手市民文化体育館

主な内容

・平成24年度 事業のまとめ

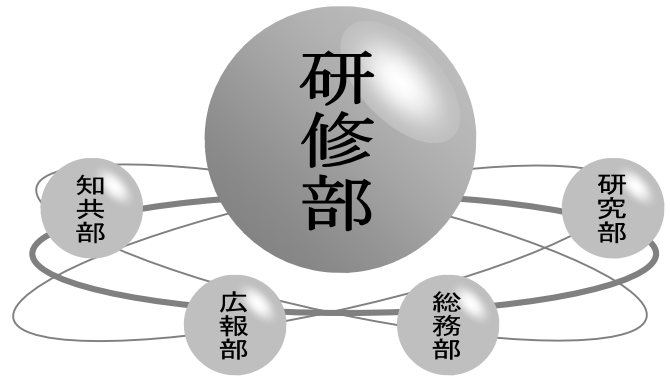
・平成25年度 事業計画の検討

## 一年間の活動を通して

今年度、研究部では「学校事務職員の将来像を考える」を新たな主題として、主に学校事務の共同実施に関する研究を進めてまいりました。事務職員の将来像という、あまりにも漠然としたテーマ設定にしたことを後悔しましたが、いざ動き出してみると、若手の部員を中心に、毎回熱心な研究活動を行うことができました。

一年次としては、まだまだ勉強不足で、学ばなければならないことも多い研究の実態ではありますが、今年度の提案が、次年度以降への布石となっていれば幸いです。

また、今後も会員のニーズに因應するための研究や、実践発表を行うっていくためには、研究部が一丸となり、さらに協議や検討を重ねていく必要があると考えています。最後に、研究大会での発表に温かいご支援をいただいたことに心よりお礼申し上げ、一年間の活動をご報告させていただきます。



## 『魅力のある企画、連携のとれた運営』

部長 中條 健一  
 副部長 山下 大輔  
 副部長 熊倉 広大  
 副部長 神野 曜子  
 松井裕務・石井俊行・篠崎智保  
 丸山 敏・菊地恭平・永山貴寛  
 高野潤一・湯村剣士・斉藤香織  
 山岸 蘭・田中博史・石井大晴  
 三ヶ尻悠人・見ル野一真・浦部一男  
 木村桃子・八幡佐和子・井澤 竜

## 活動内容

### 第1回 研修部会

平成24年6月6日(水)

幸手市民文化体育館

主な内容

- ・平成24年度細案検討、立案
- ・初任者研修会、学校事務職員研修会の実施方法の検討

### 第2回 研修部会

平成24年7月27日(金)

春日部地方庁舎

主な内容

- ・初任者研修会最終確認

### 第3回 研修部会

平成24年9月11日(火)

杉戸町立西公民館

主な内容

- ・初任者研修会反省
- ・学校事務職員研修会最終確認
- ・研究大会実施方法検討

### 第4回 研修部会

平成24年11月27日(火)

春日部市民文化会館

主な内容

- ・学校事務職員研修会反省
- ・研究大会最終確認

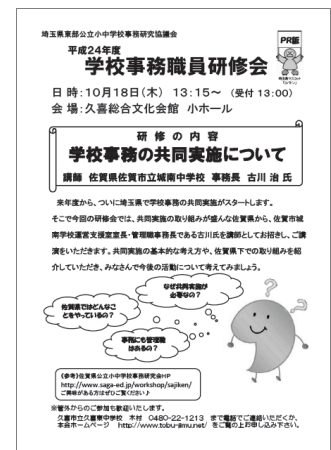
### 第5回 研修部会

平成25年2月6日(水)

幸手市民文化体育館

主な内容

- ・研究大会反省
- ・平成24年度事業のまとめ
- ・平成25年度事業計画の検討



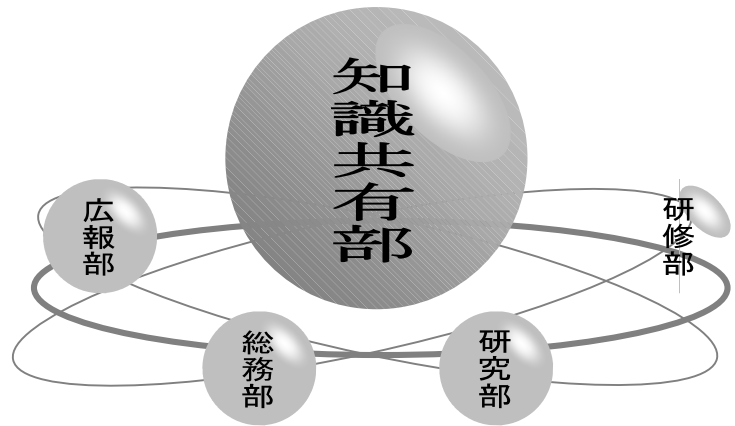
## 一年間の活動を通して

研修部では、『魅力のある企画、連携のとれた運営』を目標に企画・運営に携わってきました。

初任者研修会では、3時間程度の短い研修時間の中で、講義、実践報告、講話、グループ別討議と様々な研修を行いました。その中でも、グループ別討議は、話が盛り上がり、時間ももっと欲しかったという声が多く聞かれました。

学校事務職員研修会では、内容が来年度より全県で取組が始まる『共同実施』ということもあり、例年の倍近い会員が集まりました。興味のある研修であれば、多くの方に参加していただけることを確認する良い機会となりました。

研究大会では、大会が円滑に進み、参加された皆様に有意義な時間となるように運営に努め、無事に大会を終えることができました。今後も、多くの会員の方が参加したくなる魅力ある事業を企画していきたいと思えます。



## 活動目標

『電子化の一翼を担うと共にJ-BOXの活性化のための企画・運営を行う』

部長 山川睦美  
 副部長 生松朋大  
 副部長 伊藤雅人  
 副部長 山下真智子  
 森直樹・石井茜子  
 丸山咲子

## 活動内容

### 第1回 知識共有部会

平成24年6月6日(水)

幸手市民文化体育館

主な内容

・平成24年度細案検討・立案

・J-BOX運営検討

### 第2回 知識共有部会

平成24年7月11日(水)

春日部市ふれあい活動センター

主な内容

・J-BOX運営検討

・知識共有活動等検討

### 第3回 知識共有部会

平成24年8月31日(金)

三郷市立彦糸小学校

主な内容

・J-BOX運営検討

・知識共有活動等検討

### 第4回 知識共有部会

平成24年9月19日(水)

杉戸町立西公民館

主な内容

・J-BOX運営検討

・知識共有活動等検討

### 第5回 知識共有部会

平成24年10月26日(金)

春日部市庄和総合支所庁舎

主な内容

・J-BOX運営検討

・知識共有活動等検討

### 第6回 知識共有部会

平成24年11月27日(火)

春日部市民文化会館

主な内容

・J-BOX運営検討

・知識共有活動等検討

### 第7回 知識共有部会

平成25年2月6日(水)

幸手市民文化体育館

主な内容

・J-BOX運営検討

・知識共有活動等検討

### 第8回 知識共有部会

平成25年3月6日(水)

三郷市立ピアラシテイ交流センター

主な内容

・J-BOX運営検討

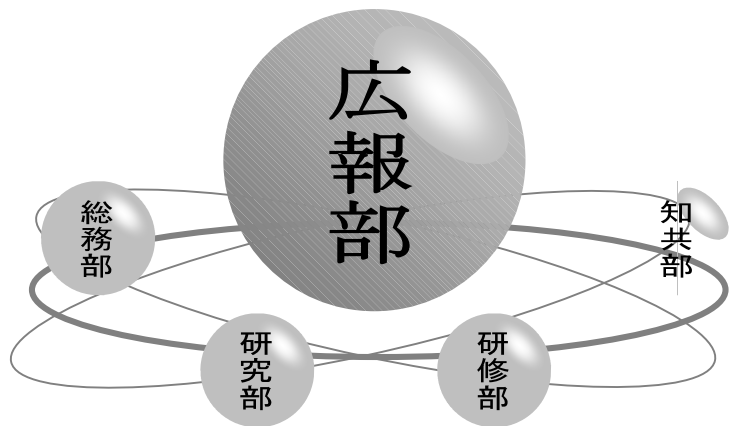
・知識共有活動等検討

## 一年間の活動を通して

今年度知識共有部は『電子化』と『活性化』を活動の主眼に置き、会員の皆様からの意見・要望を基にしたJ-BOXの改善、事例別チェックリストなどの知識の充実、研究大会でのパネル展示等の活動を行いました。他にも、東部教育事務所主催の初任者研修における新採用学校事務職員へのJ-BOXの説明、各部の議事録の掲載などにも取り組みました。

今、私たち学校事務職員は、県費事務システム導入や共同実施など様々な変化の中にあります。その中で、会員の皆様が求める知識とは何か、J-BOXの役割とは何かを考えながら、今後もJ-BOXの企画・運営を始めとした知識共有活動に取り組んでいこうと考えています。

最後に、一年間知識共有活動へご協力くださった方々に、心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。



## 『部員一丸となり、 更に充実した広報活動を行う』

### ◎ 活 動 目 標 ◎

|       |        |
|-------|--------|
| 部長    | 本橋 憲治  |
| 副部長   | 渋谷 朋 広 |
| 嶋崎 杏美 | 野口明日香  |
| 杉澤 朋子 | 星野 圭司  |
| 高橋 康浩 | 菊池 政彦  |
| 関根 俊輔 | 桜井 郁   |

### ◎ 活 動 内 容 ◎

#### 第1回 広報部会

平成24年6月6日(水)

#### 幸手市民文化体育館

##### 主な内容

- ・ 事業計画の策定
- ・ 広報「とうぶ」第38号の編成会議
- ・ 研究大会のパネルについて

#### 第2回 広報部会

平成24年9月7日(金)

#### 杉戸町立西公民館

##### 主な内容

- ・ 広報「とうぶ」第38号反省
- ・ 広報「とうぶ」第39号の編成会議
- ・ 研究大会のパネル展示(発表)について

#### 第3回 広報部会

平成24年11月27日(火)

#### 春日部市民文化会館

##### 主な内容

- ・ 広報「とうぶ」第39号反省
- ・ 広報「とうぶ」第40号の編成会議
- ・ 「東部の学校事務」第14号の編成会議

### ◎ 第4回 広報部会 ◎

平成25年2月6日(水)

#### 幸手市民文化体育館

##### 主な内容

- ・ 広報「とうぶ」第40号反省
- ・ 「東部の学校事務」第14号の校正会議
- ・ 平成24年度 事業のまとめ
- ・ 平成25年度 事業計画の検討

### ◎ 発 行 物 ◎

#### ● 広報「とうぶ」

|      |             |    |
|------|-------------|----|
| 第38号 | 平成24年8月1日   | 発行 |
| 第39号 | 平成24年11月15日 | 発行 |
| 第40号 | 平成25年2月1日   | 発行 |



#### ● 「東部の学校事務」第14号

平成25年3月1日 発行

### ◎ 一年間の活動を通して ◎

今年度も部会を4回設け「広報とうぶ」第38・39・40号「東部の学校事務」第14号を発行し、例年通りの活動をいたしました。

研究大会では広報パネル展示と広報部としては初めて「とぶ★たまちゃん」も招聘し、壇上での発表を行いました。

広報部員は、各市からの割当てで参加をしておりますので、モチベーションの差を、正直、不安視をしておりますが、積極的に意見や活動をしてくれる部員に恵まれて、昨年度の活動報告でも「真面目に面白く」の所信表明をいたしました。が、今年度もそれを達成したと言えると思います。

しかしながら、面白く感じている方からは「広報面白いですね。次も楽しみです」と言われ、とてもうれしく思いました。それを励みに、今後も、広報部一丸となり活動をしてまいりたいと思います。





# 各市町事務研 活動報告



平成25年1月1日  
現在の人口

85,824人

 小学校16校

 中学校 8校

計 24校

 会員数25人



## ◎ 事務研活動報告

行田市学校事務部会の今年度の研究主題は「病気休暇に係る事務資料の作成について」です。

病気休暇制度においては、国の改正に準じ、埼玉県でも平成23年4月より実施されるようになりました。改正にあたり、通算規定の整備や90日を超える病気休暇の特例、病気休暇簿の使用など、従来における事務処理とは異なり随分と複雑化してきました。

そこで、病気休暇についての知識を高め、適正な事務処理を行うために「病気休暇の概要・様式集・給料の半減に関する概要」(CD化)の資料を作成いたしました。

また、夏季休業中における学校事務実技研修会では、「学校防災教

育の支援について」(熊谷地方気象台防災業務係長)のご講話をいただきました。一昨年の東日本大震災を体感し、防災知識の向上と防災意識を高める必要があると感じたからです。「自分の命は自分で守る」を基本に、児童生徒の事故防止、安全確保に準じた適切な対応と避難など、学校職員としての責任を再認識いたしました。

その他、共同実施においては、各ブロックでの研究協議会を月2回(上旬・中旬)「給与報告書の確認・旅費相互審査・各校の諸表簿点検など」、全体での連絡会を月1回(下旬)「各ブロックからの連絡・研究協議など」を行いました。



平成25年1月1日  
現在の人口

116,416人

小学校22校

中学校 8校

計 30校

会員数32人



## ◎ 事務研活動報告

加須市では市教研・学校事務研究部として、年3回活動を行っています。本年度は「事例研究」を継続テーマとし、2回の研修会を設けました。

第2回は福利課短期給付担当の

関口恭子氏を講師に迎え、「短期

給付について」の研修を行いました。

保険給付から高額療養費、各種

手当金まで、膨大な資料とともに

にわかり易く解説してくださいま

した。特に「医療費のしくみ」で

は給付額の計算方法も演習してい

ただき、大変参考になりました。

後半は、各校の事例発表を行

いました。毎年持ち回りで行って

り、5・6年を目処に全事務職員

に発表する機会が与えられていま

す。小さな事例でも全員で情報を

共有することができ、また発表側

もプレゼン能力の向上が期待でき

ます。今後も継続していきたい研

修です。

なりました。

その後、各校の現状と課題をテ

ーマにした、グループワークを行

いました。同じような悩みを共有

することができ、有意義な研修と

なりました。



平成25年1月1日  
現在の人口

56,421人

小学校11校

中学校 3校

計 14校

会員数15人

は〜にゅ〜う〜の〜♪



## ◎ 事務研活動報告

羽生市教育研究会学校事務研究部会は、主任会を含めて年3回の活動ですが、共同実施協議会と2本立てで活動をしています。

本年度は「事務処理手続きの市

内共通化による、より良い事務サ

ービスの提供」を重点目標に掲げ、

学校事務分野の専門的力量向上を

目指して次の活動を実施しました。

7月30日 ここ数年新採用な

ど異動が多く、支援体制の強化が

課題となりました。そこで、誰で

もわかる学校予算システムを考え、

羽生市学校財務マニュアルを着手

し、教育委員会教育総務課の監修

を経て、年度末完成を目指してい

ます。

8月30日 県費事務の専門的

力量向上の一助として、教育事務

所職員を講師に、扶養手当認定事

務を中心に実務研修を行いました。

本年度9月に県費事務システム

が本稼働し、セキュリティ関連

でシステム導入が遅れていました

が、多方面の協力を得て、ぎりぎ

りに間に合わせることができました。

2月に財務端末更新を控え、財

務マニュアルも県費事務システム

の端末導入も不透明ですが、諸機

関と連携しながら進めていきます。

月1回発行の『陽だまり』は、

3月号で476号を数えます。各

校紙ベースの保管から、創刊号よ

りデータ化し、データを基本に『陽

だまり』の作成・編集作業ができ

るように端末の共通フォルダーに

保存しました。



## 春日部市

平成25年1月1日  
現在の人口

239,636人

 小学校24校

 中学校13校

計 37校

 会員数40人



### ◎ 事務研活動報告

「学校教育の効率化を高めるための事務改善」をテーマに、総務部・研究部・研修部・広報部・情報専門委員会・相互支援（共同実施）検討委員会それぞれ事業計画を立て研究活動を進めました。「総務部」文書関係及び教育事務所、教育委員会などとの連絡調整を行いました。また、レクリエーションなどを行い会員相互の親睦を図りました。「研究部」学校事務業務内容の具体的事例についての調査研究及び、今後新たに求められる学校事務を研究テーマに、危機管理・安全マニュアルの内容検討を行いました。「研修部」5月、研究部活動報告。7月、最近の法令、教育の動向について。12月、接遇

について。2月、パソコン研修を行いました。また、8月、現地研修会を春日部市首都圏外郭放水路「龍Q館」、庄和浄水場にて行った。

「広報部」月報、春事研要覧、広報紙「学校事務」の発行、教職員向け事務便り「Newかすかべ通信」の発行を行いました。また、広報部マスコット「桐のコバコン」の作成をしました。「情報専門委員会」共有フォルダー「桐の小箱」の整理及び管理、県費事務システム操作に関する指導を行いました。「相互支援（共同実施）検討委員会」平成25年度4月からの相互支援に向け検討会を開き、春日部市にあった相互支援のあり方について検討を行いました。

## 越谷市

平成25年1月1日  
現在の人口

330,194人

 小学校30校

 中学校15校

計 45校

 会員数53人



### ◎ 事務研活動報告

越谷市学校事務研究会では、年3回の全体研修会を開催するとともに、広報誌『かけはし』を年一度発行しています。全体研修会では、先進的な施設の訪問を行ったり、県費、共済、市費の実務的な研修や、現在の変化にとんだ社会情勢に合わせた文化的、社会的な講演を行ったりと、様々な研修を行っています。平成24年度においては次の研修を開催しました。

#### ◎ 平成24年度 総会並びに第1回全体研修会

平成24年6月8日  
講演  
「3・11あの日に何が起こったのか（私の被災体験）」

#### ◎ 第3回全体研修会

平成25年2月23日（予定）  
給与担当訪問総括・旅費執行上の留意点・扶養は正について  
講師 東部教育事務所 総務・給与担当

#### ◎ 第2回全体研修会

平成24年10月26日  
講演  
「あすへの一歩くそして越谷では」  
講師 関根賢一氏（二歩会事務局）

#### ◎ 新栄中学校

講演  
「学校事務職員の再任用制度について」  
講師 鴨下時夫専門員（さいたま市立大久保東小学校）  
講師 石山博専門員（越谷市立新栄中学校）



平成25年1月1日  
現在の人口

63,465人

小学校 8校  
中学校 5校  
計 13校  
会員数 14人



## ◎ 事務研活動報告

蓮田市には、学校事務共同実施協議会、市教研学校事務部会、学校事務研究協議会の3つの組織があります。

・共同実施協議会（月1回）

市教委などの指導助言のもと、活動しています。具体的には、毎回、会議の前半では、市教委からの指示伝達、それを踏まえた全体での情報共有を行います。会議の後半では、教育支援班、事務効率化班、OJT班に分かれて、それぞれの課題を協議した後、再び全体で協議内容を共有するといった形で開催されています。

・市教研事務部会（年2回）

第1回：東部教育事務所総務・給与担当 坂巻博志主任と松木あ

ゆみ主事を講師に諸手当の認定事務・旅費請求事務について事例研修を行いました。

第2回：今年度から導入された「県費事務システム」と「財務会計システム」について、各校で生じた問題について報告し合い、解決策を共有し、今後の事務処理をスムーズに進めるためのチェックリストを作成しました。

・市学校事務研究協議会（年5回）  
相互研修を目的に、毎回2名の事務職員が、それぞれテーマを決め、発表をし、研修を行うという形式で進めています。自分自身の仕事を振り返るきっかけや、人前で発表する経験を積むよい機会となっています。



平成25年1月1日  
現在の人口

156,073人

小学校 23校  
中学校 11校  
計 34校  
会員数 35人



## ◎ 事務研活動報告

久喜市での、学校事務職員の研究研修活動としては、久喜市教育研究会学校事務研究部として実務研修会を年1回行っています。

今年度は東部教育事務所から総務・給与担当の小山克行主事と飯塚梨奈主事の2名に講師をお願いしました。今年度9月から「県費事務システム」が本格的に稼働され、給与報告や旅費請求の方法が大幅に変更になったことから、給与報告などでの注意点についてご講義いただきました。

そして、扶養手当・住居手当・通勤手当・勤務実績報告などの報告方法を中心にした事例問題を解く実習を行い、解説を受けました。懇切丁寧なご指導をいただき、大

変意義で参考になりました。今後も様々な知識を持ち、学校運営に生かしていけるように研鑽を積んでいきたいと考えています。

研究活動のほか「久喜市立小学校学校事務ネットワーク」事業として、毎月2回（地区別・全体）、事務職員が一堂に会する機会がありますので、その際にも作業内容についての確認や新しい事項についての情報交換や確認を行っています。

この会では、市教委事務局をはじめとした市各部署からの伝達・連絡調整なども行われています。久喜市は全員が同様な情報を得ることができるよう心がけ、職能の向上のため全員で取り組んでいます。



## ◎ 事務研活動報告

白岡市では、市学校事務研究協議会の組織はなく、白岡市教育研究会内の学校事務部会として活動を行いました。

活動内容は、ここ数年の継続テーマである事務の効率化に加え、

今夏から始まった（白岡市は6月仮稼働、7月本稼働開始）小中学校県費事務システムに対応すべく「新システムへのスムーズな移行と事務改善」という研究主題を掲げ、研究協議会、実務研修会、事例研修会を各1回、計3回開催しました。

実務研修会では、実際に県費事務システムにアクセスし、基本操作から各種例題の模擬報告まで、



平成25年1月1日  
現在の人口

50,947人

小学校 6校  
中学校 4校  
計 10校  
会員数 10人



意見交換を交えながら研修を行いました。

事例研修会では、県費事務システム稼働後の特殊な事例・問題点などを各校発表し、問題解決・対処方法を共有することで、今後のシステム操作の効率化を目指しました。

また、月1回行われている旅費互審会でも情報交換を行い、各種問題点の解決を図ることで、事例を共有し事務の効率化を進めることができました。

今後も、事務部会全体として問題に当たり事務改善を図りながら、個としても部としても一層のスキルアップを目指していきたいと思っています。

## ◎ 事務研活動報告

宮代町では、宮代町教育研究会の学校事務部の活動として、夏休み期間中の7月30日に、宮代町庁舎の会議室をお借りして研修を行いました。

この活動は、町教研の主催研修として毎年1回行っています。

本年度の内容は、会員全員が不安に思っていた、本稼働を開始した県費事務システム導入に伴う給与に関する研修で、東部教育事務所の方をお招きして、演習問題を交えながら、確認のポイントを説明していただきました。

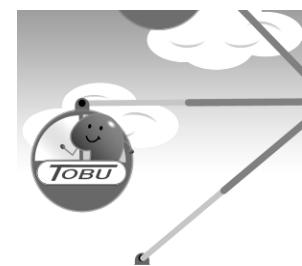
各会員個人で行っている認定事務において、教育事務所のご担当者として気になっている点や、問



平成25年1月1日  
現在の人口

33,113人

小学校 4校  
中学校 3校  
計 7校  
会員数 7人



違いやすい点などをわかり易く解説していただきました。

特に扶養手当は、被扶養者が確定申告している場合、事業収入などから扶養手当上の必要経費として差し引くことのできる経費があると教えていただき、本当に勉強になりました。支給される月額が多い扶養手当は、間違えると追及戻入する金額も多くなるため、解説していただいて大変に参考になりました。

以上のように、今年度の研修も全体を通してとても充実した時間を過ごすことができました。

研修をする場が十分に無い私たち事務職員にとって、夏期のこの研修はとても有用です。今後も続けていきたいと考えています。



## ◎ 事務研活動報告

事務研を月1回、市教研事務部会を年2回開催し、活動しました。事務研の組織は、専門部会と特別委員会で構成しています。

幸手市では25年4月導入に向け、共同実施についての協議を、研修部を中心に行いました。先行している他市町村の取り組みを情報提供し、その後は幸手市での業務内容の検討、組織や要綱検討と事務研の多くの時間を使い協議しました。

11月には、他市町村（杉戸町・久喜市・蓮田市）の方を講師に、共同実施についての研修を行いました。各市町村の業務内容を一覽表にし、幸手市で以前より行つて



平成25年1月1日  
現在の人口

53,981人

小学校 9校  
中学校 3校  
計 12校  
会員数 12人



いる業務と今後新たに取り組む業務を明確化し、共同実施のイメージを共通理解しました。

財務担当班は、今年度埼事研学校事務研修会の「予算公開と評価」の中で幸手市の予算編成と予算執行事務についての発表を行いました。

また、今年度も市教委総務課担当者を講師に、「予算編成について」研修を行いました。

広報部は、広報紙の発行、情報は「幸手市事務通信」の発行と例年の活動を進めました。

市教研事務部会では、コンピュータ研修を行い、集金事務について一連の流れを研修しました。

専門部会、特別委員会とも、それぞれが積極的に活動しました。

## ◎ 事務研活動報告

杉戸町は杉戸第二小学校に第七次定数改善計画により1名加配学校事務職員が加わったことと、杉戸中学校がクラス増に伴い学校事務職員が2名配置になったことにより、9校11名の会員で活動を行いました。

今年度の活動報告といたしましては、6月28日に杉戸町生涯学習センターにおいて第34回定期総会を行いました。

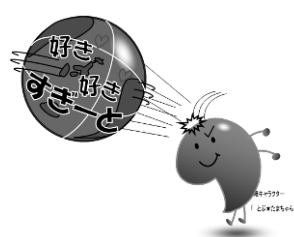
研究協議会は、第1回を9月4日に杉戸第二小学校で行いました。内容は、「小中学校県費事務システム」の稼働に伴い、県費事務システム操作手引書を基に、各校で入力を行った給与システム報告書を



平成25年1月1日  
現在の人口

46,929人

小学校 6校  
中学校 3校  
計 9校  
会員数 11人



お互いに確認をして、最後にパソコンを利用した演習を行いました。

第2回目は1月25日に同じく杉戸第二小学校で行いました。内容は、今年度より開始された、埼玉県教育局主催の「市町村立小学校など事務主査研修」に参加した会員2名により、研修報告などを行いました。

事務研を活動するにあたり、会場校や町施設におきましては、いつも快く対応していただきお礼申し上げます。

最後に、杉事研会員の皆様の熱心な研究活動に感謝し、杉戸町事務研の活動報告といたします。



平成25年1月1日  
現在の人口

84,155人

小学校 10校  
中学校 5校  
計 15校  
会員数 16人



## ◎ 事務研活動報告

八潮市は、平成17年8月24日に「つくばエクスプレス」が開業して以来、八潮駅を中心に急激な変貌をとげました。人口の増加もあり、特に駅周辺の学校は児童生徒数の増加に伴い、クラス増となっています。

事務研の活動は、市教研を年間2回開催しています。4月の教科など主任会では、役員や開催時期・会場の決定をして、10月に「事務処理の効率化」をテーマに研究協議会を行いました。研究協議会では、東部事務研の活動報告や給与などの情報交換なども同時に行っています。

また、普段はブロックごとに旅費相互確認会を行っています。

各学校や八潮市役所別館（市教委）を会場として、市内15校合同

の旅費相互確認会を年間5回実施し、旅費請求書の確認だけではなく、その時期にあった情報や事務処理の方法、県費事務システムを含めた給与報告などの事例を話し合い、市内事務職員間での共通理解を図りました。

市内全校で一同に会する機会は他市に比べて少ないと思いますが、県費事務システムや共同実施についての情報交換など、有意義な話し合いを通じて、全員が共通理解できるように心がけ、事務職員としての資質の向上を目的に全員で取り組んでいます。



平成25年1月1日  
現在の人口

68,054人

小学校 7校  
中学校 3校  
計 10校  
会員数 13人



## ◎ 事務研活動報告

吉川市教育研究会学校事務部会では（学校事務の実務向上を目指して）を研究テーマに東部教育事務所総務・給与担当三浦健司主任徳富達也主事を講師に給与等各種事例研修及び県費事務システム事例研修を行いました。内容としては次のとおりです。

### ● 給与等各種手当事例研修

・通勤手当の事例研修では、新幹線を利用するの通勤認定や高速道路利用認定など特殊な事例を具体的にお話いただきました。

・児童手当の事例研修では基本的な事例から特殊な事例まで、演習問題をもとに具体的な事務処理までお話いただきました。

### ● 県費事務システム事例研修

・今年度9月から県費事務システムが本格稼働され、給与報告や旅費請求方法が大幅に変更されたことから、誤報告が多かったケースや問い合わせが多かったケースなど実際にあった具体的な事例をあげて報告上の注意点についてお話いただきました。

＊毎月旅費の相互確認会の折に、県費事務システム・共同実施についての情報交換に努めました。

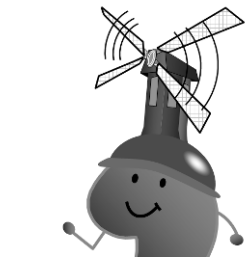




平成25年1月1日  
現在の人口

31,059人

小学校 3校  
中学校 2校  
計 5校  
会員数 6人



## ◎ 事務研活動報告

松伏町では、学校事務職員の研究研修活動として毎月の旅費相互審査会の際に行う情報交換と、年1回の町教研事務研究部の研修会を行っています。

本年度の研修会は、平成25年1月16日に講師を招き、松伏小学校において行いました。研修会は2部構成でした。

前半は、県費事務システムの導入などのIT化もあり、「旅費・IT研修」を行いました。自家用自動車を使った旅費の計算ができる「自動車車賃計算シート」を講師の方に作成していただき、それがどのように作られているのか、今後の更新の方法などを教えていただきました。シートを活用するこ



とによって旅費事務の効率化につながり、研修の成果をすぐに業務につなげることができるようになりました。また、エクセル・ワードの豆知識も教えていただき、勉強になりました。パソコンが得意な人も苦手な人も有意義なものとなりました。後半は、退職時に係る事務（手当・年金・保険証など）について研修を行いました。今後も資質向上につなげていくよう取り組んでいきたいと思



平成25年1月1日  
現在の人口

134,255人

小学校 19校  
中学校 8校  
計 27校  
会員数 27人



## ◎ 事務研活動報告

三郷市事務研は、8月を除き毎月1回、午後半日の日程で三郷市保健センター若しくは、保健センター分室を会場に事務研活動を行っています。事務研の内容としては全体協議を行った後に、テーマ別にグループ研究を行っています。

### 【全体協議の主な内容】

- 4月 年間計画の策定について
  - 5月 吉川～三郷間新道開通について
  - 6月 組合員証の検認について
  - 7月 県保管分履歴書整理について
  - 9月 県費事務システムについて
  - 10月 給与報告チェックリストについて
  - 11月 就学部分休業などの確認
  - 12月 共同実施について
  - 1月 退職手当条例改正への対応
- （2月～3月は報告作成時現在未開催）

9月に稼働を開始した県費事務システムについては、伊藤副会長の指揮の基、初期設定から入力作業、システム不具合の調整などを三郷市事務研全体で、足並みをそろえて行ったので、極めてスムーズに対応できたと思います。

全体協議とは別に、12月には他市に転出した事務職員を講師に、それぞれ異動先の市の状況と執務内容の話をしていただき、1月には蓮田市の山川氏を講師に招き「蓮田市の共同実施」についての話を聞きました。

三郷市では平成24年度現在、共同実施は行っておりませんが、全体協議の場で他県・他市の資料や状況などを参考に、共同実施についての協議を重ねています。



# 初任者の一年



## 越谷市立光陽中学校

事務主事 橋本 昌亮

### 『あつという間の一年』

4月に学校事務職員として仕事を始めてから、もうすぐ一年が過ぎようとしています。原稿を書いている1月末現在でも、4月の辞令交付式を鮮明に思い出せるほどに、一年間が「あつ」という間だった、というのが率直な感想です。

4月当初、右も左も分からずにおろおろしていた自分がここまで仕事を続けて来られたのは、ひとえに先輩事務職員の方々、学校の先生方、事務所・市役所・教育センターなどの担当の方々、出入りの業者さんなど、多くの方に多方面で助けていただいたおかげです。この場を借りてお礼を述べさせていただきます。

ところで、どうしてこれほど時間が過ぎるのを早く感じたのか、

それは、毎日が新しいこととの出会いの連続だったからだと思います。それは学校事務職員の仕事である事務処理全般であつたり、学校で必要とされる日常の雑務的なことであつたり、また学校行事への参加や学校事務職員の研修・出張であつたりとさまざまでした。

これら実際の学校事務職員の仕事と、自分が漠然と思い描いていた学校事務職員の仕事とは、似通う部分もあれば全く違う部分もありました。しかし、ひとつ思っていた通りだったのは、「とにかく色々なことができる」という点です。大変なこともあります、学校という職場にはまだまだ面白いことがたくさんありそうで、来年度はどんなことがあるだろうかと思ひながら楽しみです。

一方、来年に向けての反省点もたくさんあります。社会人として足りていない点もたくさんありますが、特に学校事務職員として足りていないと感じたのは、説明会や研修で何度もお聞きした『児童・生徒のため』という視点です。

日々の業務に追われ、今自分がしている仕事は何のためにしているのか考える余裕が持てず、どうすれば学校の役に立っているのか、先生方はどう考えているのか、などと言ったことにまで意識が届きませんでした。今後は、気持ちに余裕を持ち、視野を広く取れるよう、まず日常業務の効率化を進めたいと思います。

また、仕事とは別に今年もまた新しいことに挑戦したいと思っています。去年は先生方と一緒に、無謀にもフルマラソンに参加しました（写真はゴール直前の様子です）来年度も一年間走り続けられるよう、気を引き締めたと思います。



## 三郷市立瑞木小学校

事務主事 田代 あかり

### 『感謝』

徐々に全員の児童の顔と名前が一致し、「〇〇さん、廊下は走りません。」なんて当たり前のようにつけている今日この頃です。思い返せばあつという間で、周りの方々に恵まれた一年だったと思います。

4月2日、事前に行われた採用内定者の集いに参加できなかったことに少々不安を抱きながら、三郷市立瑞木小学校に向かいました。自己紹介を簡単に済ませ、案内された机で私を待っていたのは何やら難しそうな言葉が並んだ書類たちでした。正直、そこから4月までのように過ごしていたのか、あまり覚えていません。

しかし、先輩方の手厚い支援がとても印象に残っています。自分も含め職員の半数が異動するとい

う大変な年にも関わらず、検収会で提出するほぼ全ての書類を揃え、旅費の請求書も作成して尚、学校に足を運んでくださった前任の方。忙しい時期なのに嫌な顔一つせず、物覚えの悪い私に分かりやすく仕事を教えてくださった近隣の学校の先輩方。感謝してもきれません。これまで助けていただいたように、私も少しでも誰かに知恵を貸すことができるようになって初めて皆さんに恩返しできる気がします。

しかし、そうなるにはもう少し時間が掛かりそうです。大変恐縮ではありますが、温かく見守っていただければと思います。

本校の先生方にも本当に支えていただきました。質問に対して曖昧な返答しかできない私に「私も

勉強ね。一緒に覚えよう！」と氷だつて溶けるのではと思えるほど、温かいお言葉を掛けていただいたこともありました。そんな先生方に余計な仕事を増やさせまいと必死に働いてきたつもりでしたが、所詮は「つもり」です。多大なるご迷惑をお掛けしたと思います。その分挽回できるよう、児童を含め全員が過ごしやすい学校づくりに、努めていきたいと思っています。

この一年、初任者としては驚沢なほど貴重な経験をたくさんさせていただきました。特に、初任研の研修報告や『東部の学校事務』の原稿作りは全ての初任者ができることではありません。また、これらの経験を通してたくさんの方々にお世話になりました。尊敬でき、目標になる先輩方に出会えて本当に恵まれているかと常々思っています。そんな環境に感謝しつつ、私の目標である「学校全体から必要とされる事務職員」に近づけるよう努力していきます。

### 平成24年度 初任者の皆さん

|             |       |
|-------------|-------|
| 羽生市立新郷第一小学校 | 野中啓貴  |
| 春日部市立粕壁小学校  | 井沢まどか |
| 蓮田市立蓮田中央小学校 | 清水達記  |
| 久喜市立清久小学校   | 高橋知菜  |
| 久喜市立本町小学校   | 日笠省吾  |
| 幸手市立さくら小学校  | 忍田初恵  |
| 吉川市立栄小学校    | 林 宏弥  |
| 三郷市立瑞木小学校   | 田代あかり |
| 加須市立昭和中学校   | 小暮祐子  |
| 越谷市立光陽中学校   | 橋本昌亮  |
| 八潮市立八潮中学校   | 内藤純彦  |
| 八潮市立大原中学校   | 森 瑞妃  |
| 久喜市立久喜東中学校  | 岡田千晶  |
| 久喜市立鷺宮中学校   | 石原献二  |
| 松伏町立松伏中学校   | 笹崎智裕  |
| 三郷市立南中学校    | 井澤 竜  |





# 編集後記



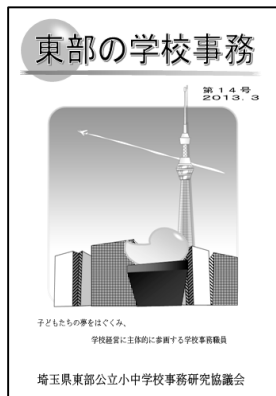
さり気なく「激動」の年であった平成24年度も、あと一  
月で終わりますね。

私が初任者のころ、市内の事務研で当時の大ベテランの  
方から、「鉄筆」と「ガリ版」でプリントを作成していた時  
代の話を聞きました。初任者の私には、そのことが想像で  
きず「キョトン」としたことだけを、今でも覚えています。

そんな事務研も終わり、学校に戻っては、四半期報告書  
なる書類や、当時B4版であった給与電算報告書や、同じく  
B4版の旅費請求書にカーボン紙を挟んでは、「半日当、1、  
100円」などとブツブツ言いながら、ボールペンでカリ  
カリと、これらの書類を書いたりしたのですが、今年度  
は「小中学校県費事務システム」が稼働したことにより、  
私たちには親しみ深かった給与電算報告書が、姿を消して  
しまいそんな時代のこと、これからの初任者の方々から  
は「キョトン」とされてしまう話になるのですね。

数年後に「昔は、給与報告書検収会というものがあつて  
ねえ、毎月地方庁舎へ通ったものさ…」などと語っては  
また、初任者に「キョトン」とされてしまいますね…。

そう考えると、やはり時代の流れは急激で、5年の内に  
私たちの仕事はさらにもう一段階合理化が進みそうで期待  
の思いよりは、寂しいという思いの方が強いですね…。



## 発行 埼玉県東部公立小中学校事務研究協議会 編集 広報部

《発行責任者》 会長 櫻井 恵美子

《広報部》 担当副会長 飯島 由美子

部長 本橋 憲治

副部長 渋谷 朋広

部員 嶋崎 杏美

杉澤 朋子

関根 俊輔

星野 圭司

・ 野口 明日香

・ 高橋 康浩

・ 桜井 郁彦

・ 菊池 政彦

平成25年 3月 1日 発行





広報キャラクター  
「とぶ★たまちゃん」